

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

<https://shinkenko.jp>

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十七年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

体内の入浴

私は現代医学の誤謬を常に書いていたが、何しろ今まで長い間病氣は医者と薬ということに決まっていたのであるから、吾々の言う理屈はなるほどと分かっていても、思い切つて実行することが出来ないのが、大抵の人の想念である。だからそういう人達のために、出来るだけ分かりやすく、ここに書いてみようと思うのである。

それについて一番分かりやすい病氣としては、何といても風邪であろう。そうしてまず風邪を引くやイキナリ熱が出て、咳や痰、くしゃみ、水ツ洩、頭痛、節々の痛み等の苦しみが起こるので、早速お医者に診て貰うところがこれに問題がある。誰しも風邪ぐらいと思っている半面、ウツカリすると、どんな事になるか分からない、あるいは大病の始まりかも知れないという心配が頭を持ち上げてくる。そこでお医者という通りにして治る

のを待っている。また人によってはアスピリンや葛根湯を煎じて服むとか、お手製の卵酒、蜜柑の黒焼などをのんで、ウンと布団をかぶり、真ッ赤になって汗を出すやり方である。又懐の温かい臆病な人は、そんな姑息な方法は出来ないとして、手遅れになっては大変だ、それこそ取り返しがつかないと、普段から信用しているお医者に聞くと、何しろ風邪の原因すら分かっていない医学の事だから、ハッキリ説明が出来ないので安心は出来ない。それもそのはず、お医者自身でさえ肚の中では、あるいは肺炎になるかも知れないという懸念もあるからで、そこでまず安静第一と、せいぜい御大事にしない、くらいの御座なりの言葉なので、心細い事おびたしい。といって外にどうしようもないから、ビクビクもので、一日中体温計と首ツ引きであるのを、吾々から見れば実に滑稽至極である。

ところがいつも言う通り、風邪ぐらい結構なものはないので、体中のどこかしらに溜っている毒の掃除であるからで、即ち熱のために溶けた痰や水ツ洩、汗などが出るだけ出れば治つてしまい、後はサッパリして健康は増すからである。つまり口ハで体内の掃除が出来るのだから、こんな有難い話はないではないか。これをたとえてみれば、入浴は外部の清潔法で、風邪は内部の清潔法と思えばいい。

い。つまり皮膚に溜った垢を落すのと同様、体内に溜った垢を落すのである。だから痰や鼻汁、汗も垢である。もちろん皮膚は人間の手で洗えるからいいが、腹の中はそうはゆかないが、自然は有難いもので、風邪という方法で洗い落されるのだから、何と造物主という神様はうまく造られたものではないか。としたら実に風邪さまである。だから出来るだけ風邪を引くようにすればいいので、これがまず一番の健康法である。つまり神様の造った健康法である。従つてこの理屈が分かっただけでも、心配は半分以上減つてしまふのは当然で、かえつて手当などせず放っておくに限るので、それでとても順調に治るから、今度風邪を引いたら試してみればよく分かる。しかも体内が浄まる以上、その後は段々風邪を引かなくなる。（次頁へ続く）

※口ハとは「ただ・無料」の意味

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 病弱だった私が健康で幸せに…
- 原因不明の咳一週間で楽に…
- 生きるか死ぬか？奇跡をいただく…

ところがこんな簡単な理屈が今日まで分らなかったという事は実に不思議で、人間くらい愚かなものはないと私は思っている。という訳で風邪を無暗に恐れ、引いたが最後余計な金を使い、仕事もせず散々苦しんだあげく、結核などになるのだから、憐れなる者よ、汝の名は人間なり」と言いたいくらいである。そればかりではない、ここに問題なのは薬である。前記の如く、体内の清潔法を逆解して止めようとするのが医学であり、そのため用いるのが薬と称する毒物である。およそ世の中に本当の薬というものは一つもない。しいていえばまず米の飯である。これは人間が生きてる以上、一日も欠かす事が出来ないからである。だから今日薬といって有難がっているものはことごとく毒であって、毒の力で治るのを邪魔するのだから、これ程間違った話はあるまい。ではどうしてそんなに間違ったかという、清潔作用の苦しみは薬で一時楽になるから、それを治るものと錯覚してしまったからである。とすれば、薬というものは全く禁断の木の実であろう。

ところがまだ大変な事がある。それは薬毒は体内へ入ると大部分は残ってしまい、何年、何十年経つても外へ出ないで、体内各局所に固まってしまうのである。それに清潔作用が起こる。それが風邪であるから、そのまま放っておけば必ず治るものを、わざわざ薬で拗らし余病を作ったり、悪化さしたりして、命までもフイにするのだから、あきれて物が言えないのである。こうみてくると病気の因は全く薬毒であるから、人間は薬をやめ、出来るだけ風邪を引くようにすれば、年中無病息災となり、長生きする事請け合ひである。

このように素晴らしい人類の誤りを私は発見し、しかも浄霊という薬毒排除法まで教えるのであるから、私の事業たるや、いかに大きな救いであるかが分かるであろう。私の唱える病貧争絶無の地上天国を造るなどと偉そうにいうのも、まんざら法螺でない事が肯かれるであろう。

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

膿胸・肺浸潤

病弱だった私が健康で幸せに：

千葉支部
藤井峯子（95）



私は昭和五年五月一日、八人兄弟の四番目として生まれ、幼少期は現在の北九州市門司区に住んでおりました。

私は生まれつき身体が弱く、一二三歳頃には「膿胸」という肺の胸膜付近に膿が溜まるという病気になりました。私自身記憶はないのですが、胸に溜まった膿を除去するために、パイプを体内に入れる手術をしました。こうした影響もあり、私は幼い頃から病弱で、治療のために病院通いばかりしておりました。

女学校を卒業してから結婚をする昭和二十七年、二十二歳までの間にも肺

浸潤に罹る等で、様々な治療もしてきました。その後、一度は体調も落ち着いていましたが、身体は弱い状態でした。そのため結婚後も通院していましたが、子どもは授かることが出来ませんでした。最初の子どもは、一二〇〇グラムという未熟児だったのですが、おかげで元気になり、その後に二人目の子どもも授かることが出来ました。

九十五歳の今でも何不自由ない：

昭和五十年、私たち家族は、私が四十五歳の時に千葉県に引っ越ししました。ただ、夫の勤め先が船会社だったため、出張することが多く、転勤を繰り返しながら、夫だけが単身赴任することもありました。そんな中で二人の子どもを育てていましたので、時折北九州の実家に帰省しておりました。実家の近くには私の姉（林悦子）が住んでいましたので、帰省の度に姉に会っていました。すると、元気のない私の姿を見て、姉が「一度浄霊を受けてみたら？いいところがあるよ：」と教えてくれました。私は姉と一緒に、すぐ小倉支部へ行きました。支部で浄霊を受けると、今まで感じたことのない気持ち良さがあり、とても不思議だな：と思いました。私はその後、千葉県から定期的に北九州に帰省したのですが、その度に浄霊を受けるようになり、おかげ様で段々と調子も良くなりました。その後、浄霊を受ける回数も増え、自分自身でも浄霊が出来るようにと思い、平成四年六月十一日、六十二歳の時に小倉支部で入会しました。

入会後も浄霊で元気な状態が続い

ており、肺が苦しいということもなく、呼吸が苦しいということもなく過ごすことが出来ています。もともと病弱だった私がここまで快復出来るとは思ってもいませんでした。

私は現在九十五歳ですが、今でも五階建ての集合住宅の最上階に住んでおり、階段の上り下りをしています。この年齢であれば施設に入ったり、入院や介護サービスを受ける人が多い中、私は何不自由なく生活が出来ています。

令和五年十一月には、息子夫婦と娘と私の四人で九日間の九州の旅へと出かけることが出来ました。帰路では京都も観光して無事帰宅することが出来、とても楽しい旅の思い出が出来ました。この歳まで元気でいられるのも明主様のおかげです。私には孫が五人、ひ孫も五人います。とっても幸せです。心より感謝しております。

皆さんも浄霊を受けて幸せになつて頂きたいと心から願っております。

（千葉県千葉市）

浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

風邪・咳

原因不明の咳
一週間で楽に…名古屋支部
黒澤真希（26）

私が浄霊を受け始めたのは平成十六年、私が五歳の頃です。当時、私は、一回風邪を引くとなかなか治らず、熱や咳を繰り返して薬を飲み続けていました。しかし三カ月程薬を飲んでも良くなり、保育園にも行けない日々が続いていました。その後、熱が下がって保育園に行くことが出来ても、給食を食べ終わった後に保育士さんと一緒に、たくさん薬を飲んでた記憶があります。そして家に帰ってからは、夜中に咳が続いて止まらず、眠れない日々が続いていました。他の子供達に比べると、当時はあまり元気に過ごすことが出来ず、辛い日々でした。病院からも「原因が分からない」と言われており、母もこのまま薬を飲んでいて良いのだろうか…と置いていたそうです。

です。母は浄霊のことを聞くと直感で「お願いしたい」と思ったそうです。その後、母と一緒に支部へ行きました。一日、二日、三日…と続けて浄霊を受けていますと、風邪の症状が良くなりました。母は良くなっていく私の姿に感動し、平成十七年一月に会員となって自宅でも浄霊をしてくれるようになりました。

たくさん薬を飲んでも良くならなかった日々が、まるで嘘のように少しずつ元気になっていったことを心から嬉しく思いました。浄霊を知ってから、保育園や学校も長く休むことがなくなり、一年間一日も休むことなく、皆勤賞をいただくことが出来ました。

現在、社会人になって五年目ですが、病気で長く休むことなく働くことが出来ています。病気で休みがちだった当時の自分には考えられないことで、とてもありがたいと感じています。これも明主様に御守りいただいているからであって、決して当たり前のことではないと思います。御縁をいただけたことを心より感謝しています。

また、協会との御縁をいただけてから自然農法も知るようになり、食べるものが心と身体の健康に大きく関わることも実感していますので、出来るだけ自然農法で出来たお野菜やお米をいただくようにしています。

一人でも多くの方が、心も身体も健康で過ごすことが出来るように…と願っています。

（愛知県稲沢市）

高校では皆勤賞も…

ネパール

腸チフス・ガン

生きるか死ぬか？
奇跡をいただく…カトマンズ支部
カルパナ・パラジュリ（47）

一九九四年、私が十六歳の時、高熱が出て腸チフスになり、麻痺して、ベッドから出ることも出来ず、歩くことも出来ず、食事もしない状態でした。その上、おたふく風邪にもなって、まともに話すことも出来ませんでした。家族は私の状態をとても心配していました。母は、私が生きているだろうか…と、寝ている私を何度も手で触って確認する程でした。病院へ行っても色々な治療を試しても治らず、これ以上生きることは難しい…と諦めていました。

た家の近くにあったナランガー支部へ連れて行ってくれました。ナランガー支部へ行くと、初めて浄霊を受けたのですが、私は座ることも出来ない状態でした。しかし、浄霊が終わったあとに、体が少し軽くなったように感じました。それから浄霊を一日に三、四回受けるようになりました。おかげ様で薄紙を剥がすように、ゆっくりと良くなっていきました。

浄霊を受けてから一カ月過ぎると、他の人と同じように食べることが出来るようになりました。そして、三カ月浄霊を受けると、信じられないほど健康になりました。

私も家族も大喜びしました。浄霊は素晴らしいと思い、一九九四年末にナランガー支部で入会し、会員になりました。

会員になってから六カ月後、私は結婚して、ビルターモというところに十七歳の時に嫁ぎました。

ナランガーは、首都カトマンズから西へ約一〇〇キロのところであり、ビルターモはカトマンズから東へ四〇〇キロなので、ナランガーからビルターモまでは東へ五〇〇キロも離れていました。

生きるか死ぬかの状態からは考えられないことでした。その上、さらに結婚した一年後には息子が生まれたのです。本当に嬉しかったです。

浄化作用

人間には体内の毒素（＝不純物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

配になったのでビルターモ出張所へ行き、浄霊を受けるようになりました。浄霊を受けると、段々と自分の健康に自信が出て来ましたので、「赤ちゃんを産みたい！」という気持ちになりました。おかげ様で、七カ月程経つと、シコリが小さくなってきました。その上、赤ちゃんも自然分娩で生まれてきてくれました。お医者さんは胸にシコリがあるから母乳を与えてはいけいと言われていましたが、何の影響もなく母乳で健康に育てることが出来ました。その後、シコリは徐々に小さくなり、完全に治りました。心より感謝申し上げます。

その後、二〇一五年一月、カトマンズに転居し、現在はカトマンズ支部で浄霊を受けています。

（ネパール・カトマンズ）

自然農法

自然農法体験談



熊本支部
おおつ まこと
大津誠 (60)

私の家は花農家でしたので、栽培に化学肥料と農薬を当たり前前に使用していました。しかし、農薬の恐ろしさは知っていましたので、「家で食べる野菜くらいは無農薬で作りたい」と思い、家の敷地の一角で無農薬野菜を作り始めました。現在で四十七年程になります。

野菜を作り初めた頃は害虫がたくさんついて、見映えも悪い状態だったのですが、自然年数が長くなると、段々と虫もつきにくくなっていました。明主様の御教えにも『土の肥毒分がなくなっていけば虫もつきにくくなる…』という一文がありますので、その通りだと思いました。おかげ様で収量も増えてきました。その上、味がどんどん良くなって来ています。

私はどの野菜も種を採っているのですが、冬の大根は種採りを初めて二十五年になります。ほとんど虫もつきません。ただ、原種に戻ろうとしているのか、カブみたいな形になる物や表面が薄い赤色になるものが全体の一割程度あります。無農薬なので、葉も安心して食べられます。

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。

し、丸い大根は辛さが少なく煮物などに最適です。

秋の葉物野菜（ほうれん草や小松菜など）は茹でて冷凍しておけば、翌年の野菜が出来るまで美味しく食べられるのでとても有難いです。私の野菜は協会の会員さんや知り合いの方にも分けているのですが、皆さん「おいしい」と喜んで食べてくださりますので、とても作り甲斐があります。

現在は出荷用の生花の栽培もやめており、自宅用の花だけを栽培しています。自宅用の花は無化学肥料、無農薬で栽培していますが、花にも虫がつかなくなりました。やはり明主様の御教え通りだと思っています。

無肥料で栽培した花は日持ちが良く、色もきれいで有難いです。

近年、天候不順が続いているので、作物によっては出来不出来の差が大きくなって来ているように思われます。

天候で野菜の植え付けや成長に影響を及ぼしていますが、サツマイモやトマトは順調に育っています。スイカも雨の合間の強烈な日照りで未熟なうちに割れてしまう物もありましたが、おかげ様で少しは収穫出来、皆さんに美味しく食べて頂くことが出来ました。

これからも自然農法を続けていきたいと思えます。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

宮川長春

《婦人弹琴之図》

宮川長春（一六八二～一七五二）は江戸初期、宝永から寛延期に活動した尾張出身の浮世絵師です。大和絵の土佐派や、菱川師宣などをよく学び、気品にあふれ美しい女性像を数多く残しました。本作でも琴に向かう女性の姿が艶やかに描き出されています。女性がまとう着物の袂模様には水紋、背後に立てられた屏風には水墨画風の風景が、それぞれ緻密な描写で表され、限られた要素で豊かな絵画世界が生みだされているようです。

琴は伝統的な和楽器ですが、我々がよく知る十三絃のものは厳密には「箏」といいます。ここで描かれている女性の指には箏爪がみえるので、本作で爪弾かれているのも箏だと考えることができます。唐から伝来した箏は、奈良時代に雅楽で用いられたのちも宮廷社会で普及し、平安時代以降のさまざまな物語文学に反映されました。江戸時代に入ると、三味線や胡弓、尺八とともに発展し、お稽古事としても広まっています。花見や月見、紅葉狩といった行楽地での宴会では歌舞がつきもの。こうした華やかな遊楽の様子は風俗図として描き出され、浮世絵の誕生にもつながる素地をつくりました。

こうした絵画の系譜には、もう一つの水脈が指摘されています。それは「琴棋書画図」の伝統です。琴・囲碁・書道・絵画の四つの技芸は琴棋書画と呼ばれ、中国の士大夫のたしなみとされています。これを絵画化したのが琴棋書画図で、日本でも襖や屏風絵のテーマに好んで取り上げられ、流派を問わず多数描かれました。風俗図はこの琴棋

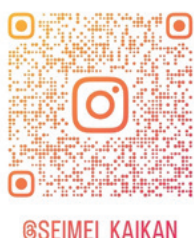
書画図の伝統をベースに、琴が三味線となったり、囲碁が双六に置き替わったりして構成されているといわれています。町人たちが力を持ち始めたこの時代には古典文化も広い階層で楽しめるようになっており、浮世絵においても古典的な画題に当世風俗を見立てたものがたくさん発行されました。

背景に描きこまれている屏風なども相まって、本作は中国の格調高い古典的な雰囲気を感じさせます。長春は生涯にわたって肉筆画のみを手がけたことで知られていますが、富裕層からの注文を受けて制作する一点ものである肉筆画では、品格の高さを最も大事にしていたのではないかと推測されます。

解説
松田愛子



晴明会館（美術館）
のInstagram
ははじめました。



晴明会館

「ゆめのうき世に」前期展
期間…令和7年6月3日（火）～12月13日（土）

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535